

行田市は・・・

- **消滅可能性都市 第2位**
(2010⇒40年までに20～39歳の女性が5割以下に減少)
- **高齢化率 第2位**
⇒ **高齢者(受け手)は増え、若者(支え手)は減る**
- 要介護者 1.44倍↑ (2015⇒25年)
- 就業人口
34256人 ⇒ 22938人
(67%↓ 2015⇒40年)

医療・福祉

医療介護人材需要 **1.2倍**に↑
…働く人の1割⇒2割は医療介護職へ

地域ストックマネジメント研究(OPoSsuM)作成. 行田市未来カルテより抜粋

行田市の財政収支予測

| (億円) | 歳出 (性質別) | 歳出 (目的別) | 歳出 (平均) | 歳入 | 歳入-歳出 |
|-------|----------|----------|---------|-----|-------|
| 2015年 | 256 | 256 | 256 | 272 | 16 |
| 2020年 | 257 | 250 | 254 | 259 | 5 |
| 2025年 | 255 | 243 | 249 | 247 | △ 2 |
| 2030年 | 252 | 236 | 244 | 233 | △ 11 |
| 2035年 | 249 | 230 | 240 | 216 | △ 23 |
| 2040年 | 206 | 225 | 215 | 197 | △ 18 |

地域ストックマネジメント研究(OPoSsuM)作成. 行田市未来カルテより抜粋

2010年
老人：支え手 1：2.9
4.5人に一人が65歳以上
20～39歳女性（2008～12）9893人

2040年
老人：支え手 1：1.3
2.6人に一人が65歳以上
20～39歳女性 5000人

①患者・高齢者を元気に

元気なお年寄りを増やして、介護される人を減らし、支え手の負担を軽くする。

②働き手・若者を増やす

支え手となる若者を増やす。

どうするか？

③効率よくケアを割り当てる (ケアマネージメント)

専門職 担当患者数 2人 1人 3人

専門職の担当する患者数の幅りを均等にし、専門職の負担を軽減する。

④受け手を支え手に…介護保険の総合事業

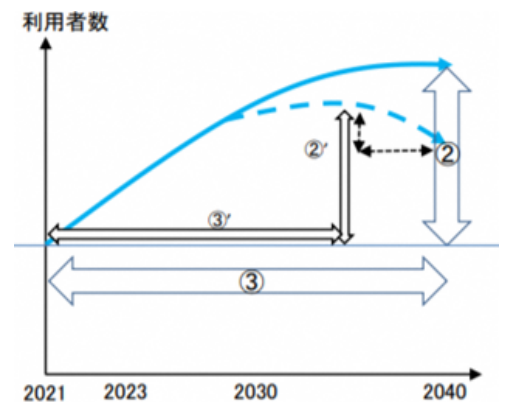
高齢者を元気にし、介護を受ける側から介護する方を支える側になってもらう。

どうするか？

「消滅可能性都市 行田」を救うために

- 2040年・・・「消滅可能性都市」埼玉県40市第2位・高齢化率第2位
 - ・ 人口10年間9000人ずつ↓ 要介護者1.44倍↑
 - ・ 就業人口33%↓ 介護人材需要1.2倍↑
 - ・ 市の財政2025年赤字に転落予想

- 要介護認定率14.5% 24位 基準額5480円 12位
保険料伸び率10.3% 6位/61
⇒2040年 高齢者一人を労働人口一人で支える「肩車型」
・・・ ⇒消滅



- 過去のサービス利用傾向の延長として将来見込みを推計する ✕
保険者が地域デザイン力（経営の意図）を発揮しサービス必要量を定めた整備計画として、誘致や参入要件の提示を行う ●

2025・2040年を見据えた
サービス基盤の整備

- 2040年の姿から逆算して今すべきことを検討する。
例）地域包括支援センター 4か所 ⇒ 5か所 ⇒ ……出口戦略

- 保険者機能強化推進交付金による評価
 - ・ PDCAサイクルを活用による保険者機能強化に向けた体制構築 53位
7期の策定委員会138人からパブコメを頂き、
『これを踏まえて年一回評価委員会でPDCAサイクルを回して計画の見直しを行う』
・・・評価委員会・・・履行されていない ✕
 - ・ 通いの場への参加割合 0%⇒6%（2020年末までに）
 - ・ 介護人材確保 ほぼ0点

- 基本指針
 - ・ 2025年2040年を見据えたサービス・人的基盤の整備
 - ・ 地域共生社会の実現（成年後見人制度・認知症意思決定・ACP）
 - ・ 保健事業と介護予防の一体的実施（2024年まで）
 - ・ 有老・サ高住の情報連携強化 保険者機能
 - ・ 認知症施策推進
 - ・ 地域包括ケアを支える 介護人材確保 と業務の効率化
 - ・ 感染症・災害対策の備え

* 志木市では、高齢者・介護保険事業計画策定のため地域包括支援センター
・ 地域密着型運営協議会と一体化している。

* 武蔵野市では地域共生社会に向けて第6期障害者福祉計画と統一性を持たせるため合同策定委員会
を予定している。